

会員数	37,345	(前月比) + 52
郵送	9,119	(前月比) - 16
手配り	26,498	(前月比) + 42
協同基金到達額 2,499,981,000円(7/31現在) [前月比 6,581,000増]		
協同基金出資者数 17,339名(7/31現在) いのちを守る助け合い募金額 14,162円(7/1~31)		



2018
9
No.420

発行 健康友の会 みみはら
本部事務局組織部
機関紙編集委員会
〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860
1部30円



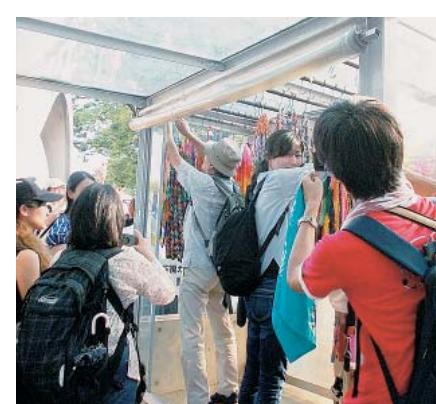
私73年を経た世界遺産原爆ドーム。私たちに何か問い合わせているようだ

8月4日から6日まで、
堺原水協代表団51人の一員として、25人の同仁会グループの仲間とともに、原水爆禁止2018年世界大会開会式へ。2200人の参加者で、会場は満員でした。大会は原爆被災者と先の豪雨で犠牲になつた方々への黙とうから始まり、主催者あいさつでは「世界平和は武力ではなく対話で生まれる。大会でしつかり論議し、安倍政権と対決しようと」呼びかけられました。

藤本泰成大会事務局長の基調報告では、「安倍政権の、命をないがしろにある核政策の暴走を止めよう」と強調されました。最後に、参加者全員で「原爆許すまじ」を合唱し、閉会挨拶で建てられた266戸の住宅は、一軒あたり800万円の建築費と0万円の建物費とが、それだけのお金が福祉予算にまわつたならと考へると、とても腹が立ちました。



参加者あと会議が終了しました。



参加者みんなで折り鶴を捧げる

原水爆禁止日本協議会2018年広島に参加して

平和は武力でつくれない

5日は分科会で、私は「岩国基地」の見学に行きました。軍民共用の岩国空港では管制権は米軍が握っています。民間機の離発着にも多大な支障があるそうですが、この日は日曜日で米軍機の離発着はありませんでした。また、米軍駐機場の側を通るANA機を見ると複雑な思いです。思ひやり予算で建てられた266戸の住宅は、一軒あたり800万円の建築費と0万円の建物費とが、それだけのお金が福祉予算にまわつたならと考へると、とても腹が立ちました。

た。

6日は、広島平和祈念式典に参加しました。日本だけでなく、世界各国から多くの人が平和を願い集まりました。

7月28日、29日の2日間、サンスクエア堺にて毎年恒例の「堺 平和のための戦争展」が開催されました。台風が近づく中でしたが、初日は時間を短縮するなどして、2日間を無事に終えることができました。両日合わせて約900人が訪れ、各展示ブースやアニメ映画などに足を運びました。

今年のテーマは「平和について」、堺で学び楽しもう、各ブースでは展示や体験・交流コーナーなどが設けられ、クイズや吉野杉を使う「すいとんづくり」など、多彩な催し物に子どもから大人まで参加

しました。初日のステージでは合唱「ぞれつしゃがやつきて」「君死にたもうことなかれ」やリズムに乗つてアーメ「ぞれつしゃがやつきてきた」の原作者である小出隆司さんのお話、映画の上映も行われました。

2日目の、三国ヶ丘高校（定）放送研究会作成の「堺大空襲」「百舌鳥古墳群」の上映では会場がいつ

映も行われました。その後原水協が開催された「堺から公言をなくそう」の講演会には、耳原総合病院を含む同仁会に勤めている医師の約3分の1が女性であります。患者さんの命と向き合う厳しい研修をへて成長した若い女性医師が、妊娠、出産、育児休暇をへて無事職場復帰したと聞くと、とてもうれしい。女性医師が働き続けられる環境は、男性医師にとっても働きやすいはず。医師夫妻が子どもとのお話しに懐かしがる参加者もいました。

堺 平和のための戦争展



初日のステージ

また、基地周辺の地域では治安が悪く、地元の人、特に若い女性は夜9時を過ぎると出歩かないとのことでした。基地に居る米兵みんなが悪いとは思いませ

です。（組織部支部専任 鞍田 康子）



中田鉄さんの写真に見入る参加者

聴診器

東京医科大 学が、一般入試で女性受験者の得点を一律に減点して、女性の合格者数を操作していた疑惑が報道された。そんなことをやっていたのか！卒業後、医局に入局するとき女性はいらっしゃないと断られたという話はある。しかし、入試という最初の入り口で女性を制限することはゆるせない▼耳原総合病院を含む同仁会に勤めている医師の約3分の1が女性である。患者さんの命と向き合う厳しい研修をへて成長した若い女性医師が、妊娠、出産、育児休暇をへて無事職場復帰したと聞くと、とてもうれしい。女性医師が働き続けられる環境は、男性医師にとっても働きやすいはず。医師夫妻が子どもとのお話しに懐かしがる参加者もいました。

戦後、堺をカメラのファインダーから見続けた、中田鉄さんによる「昭和のくらし」展にも両日ともたくさんの方が来場し、当時の懐かしい白黒写真に見入っていました。

今回、初めて堺市の後援をもられたことは、大きな一步だったと思います。戦争の悲惨さを風化させないためにも「堺 平和のための戦争展」が来年以降も多くの人たちと連携した取り組みを広げていきたいと思います。（事務局）

（山上佳代子）